

全国抗菌薬販売量2025年調査データ

昨年(2024年)と比較して微減ながらほぼ横ばいの傾向

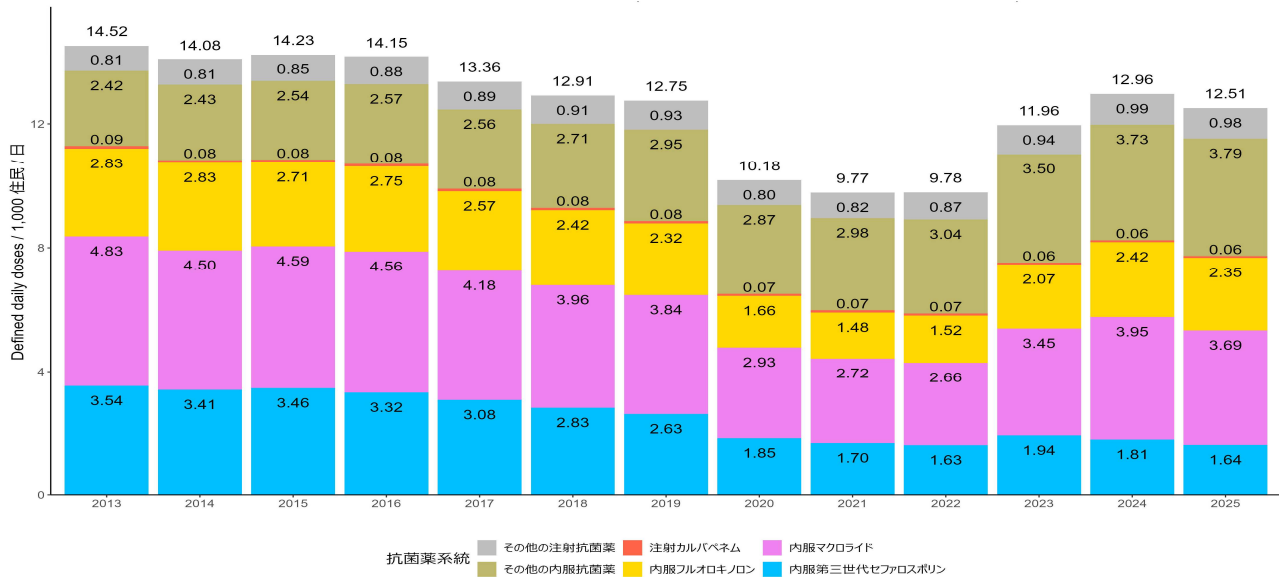


図1. 全国抗菌薬販売量推移 2013-2025 AMR対策アクションプラン 2023-2027成果指標による集計)

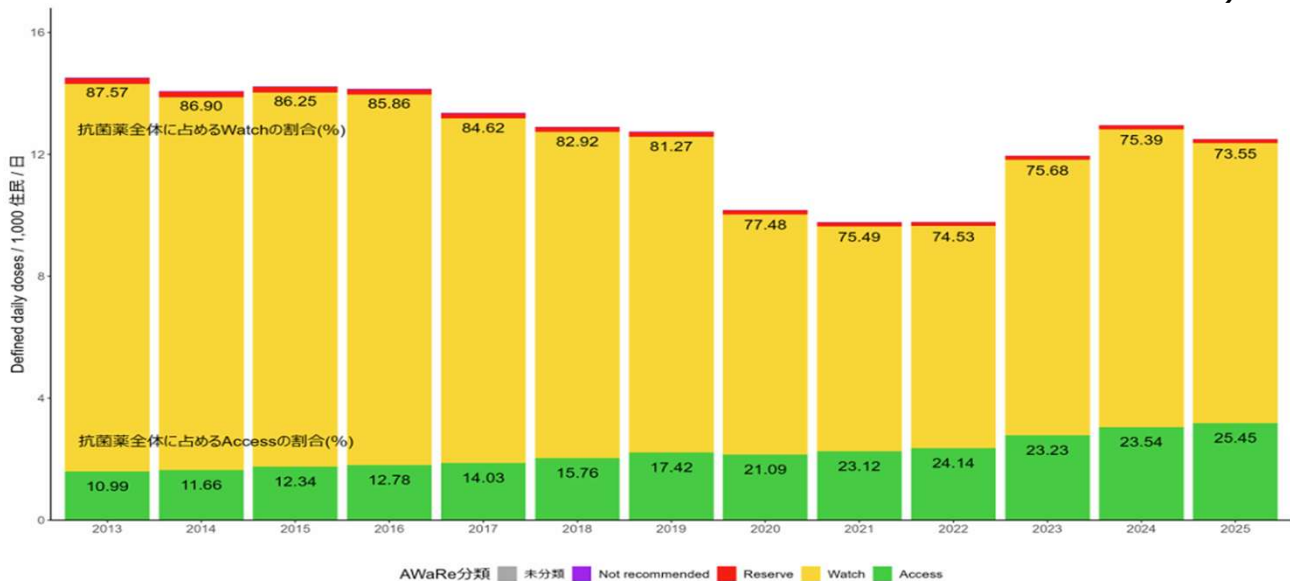


図2. 全国抗菌薬販売量推移 2013-2025 (抗菌薬種類: AWaRe分類による集計)

◆集計結果について

2025年の販売量に基づく住民1,000人・1日あたり抗菌薬使用量(DID)(図1)は12.50DIDであり、昨年12.96DIDとほぼ同様に推移しました。抗菌薬の種類別にみると、AMR対策アクションプラン2023-2027の成果指標において削減対象となっている広域抗菌薬である内服第三世代セファロスポリン系薬は1.64DID、内服マクロライド系薬は3.68DID、内服フルオロキノロン系薬は2.35DID、注射カルバペネム系は0.06DIDとなっており、2024年と比較すると微減ながら、ほぼ横ばいの推移です。適正使用の指標の一つであるAWaRe分類別(図2)では、Access割合は25.45%、Watch割合は73.55%であり、Access抗菌薬使用割合の増加傾向は継続しているものの、国際的な目標値である60(70)%以上には到達していない状況です。

引き続き、抗菌薬使用量のサーベイランスおよび適正使用の調査分析を進めてまいります。